

一生けんめいすると、何でも面白い

原爆被害者 梅北トミ子さん

心から面白いと思えるほど何かに一生懸命努力できているだろうか。僕は心を打たれた。この言葉との出会いは終戦から七十三年後の広島平和記念資料館。僕と同じ十三歳の女学生の最後の日記の一文だ。持ち主の生き様や被爆時の様子も共に展示されていた。疎開作業に従事し勉強したくてもできない耐えるばかりの時代。こんなに苦しい状況でもどれだけ前向きに一生懸命生きようとしていたか。もつとやりたいことを心から面白いと思えるぐらいやりたかっただろう。今、僕は何にでも挑戦できる恵まれた時代にいるが面白さに気付く前に努力せず諦めていないだろうか。この言葉を心から言えるよう努力を惜しまず、平和を訴えられる人になりたいと思う。

受賞にあたって

家族で広島平和記念公園に行ったときに出会った日記です。母方の祖母が原爆被害者であり、昨年公園に足を運びました。梅北さんの言葉を受け、今はソフトテニスや習字を頑張っています。これからも努力を重ね、将来は恐竜などを研究する理系の職業に就きたいと思っています。

出典

梅北トミ子さんの日記 広島平和記念資料館所蔵